



平成 22 年 7 月 26 日

さ く し ん

下氷鉋小学校

(校長室だより 2 4)

校長 大内 徹

梅雨明けの真っ青な空が顔を出し始めました。学校のプールでは、白い水しぶきとともに子ども達の明るく元気なはしゃぎ声が上がっています。登校日数 75 日の一学期も終わり、いよいよ明日から夏休みです。今日、子ども達は通知票をもって帰りました。小・中学校の頃、私も通知票が渡される終業式の日、朝からちょっとワクワク、ドキドキしていたのを思い出します。お子様はどのような気持ちで通知表を手にして、持ち帰ったのでしょうか。

私ごとで恐縮ですが、小学校時代にいただいた通知票には必ずといってよいほど、「努力が足りない」という所見が記されておりまして。「家に帰れば、また親の小言か...」と憂鬱に感じたものです。

そのような私でしたが、中 1 の一学期終業式の日は違いました。担任から渡された通知票をこわごわ覗くと、「？」という数字が目に入ってきました（？は個人情報につき、ご想像に任せます）。目を疑いながら、何かの間違いだろうと見てみると、それは国語の「習字」の欄についていました。大して上手でもないし、習字道具も忘れていき、他人様のものを借りてやっていたくらいなのに、なんで「？」を下さったのか不思議でした。ただ、一つこんなことが思い出されます。ある習字の時間、例によって文鎮を忘れてきたことに気づくと、習字担当の Y 先生はそのことを特に叱りもせず、穏やかな声で「中庭から石をもっておいで」と仰るのです。そして、文鎮代わりになりそうな重さの石を二つ拾ってきて練習していると、私の字をみんなの前でたいそう褒めて下さったのです。「そうかなあ、そんなにいいのかなあ」と思いながらも、内心やはり嬉しかったのを覚えています。でもまさか通知票で「？」まで下さるなんて思いもしませんでした。他の教科は全く振るわないのに、その日はとっても幸せな気持ちになりました。そんなことがきっかけで少し好きになった「習字」をもっとやろうと、翌年は習字クラブに入りました。その頃は、自分にも「いいところ」があるのかなという自信のようなものが芽生えてきた時期であったかもしれません。

褒めること、認めてあげることで、人は伸びていくということは誰でも分かっているはずのことですが、マイナス面が目につき始めると、褒めること、認めることの大切さをついつい忘れがちです。

このことを、Y 先生のことを思い出しながら自戒しております。

現在、私は住んでいる上駒沢地区の謡曲グループに入っており、月に二回ほど師匠のご指導を受けながら謡（うたい）の稽古をしております。まだ始めて間もないのですが、先月は浅川公民館での謡いの研修会（発表会）で脇役をやらせていただきました。「いい声が出ていたね」なんてお世辞で褒めて下さる方もいます。お世辞だと分かっているけど、多少自分が頑張って納得していれば嬉しいものです。「もっと頑張ろう」という気持ちになるものです。謡をやっている方には「よくその年齢で始める気になったねえ」なんて言われるのですが、新しいこと、自分にとって初めてのことにチャレンジしていると、なんだか子どもの気持ちが分かるような気もするのです。ちょっとしたことで、「いいねえ」と言われると嬉しいものです。「このくらいのことで『いいぞ』なんて言ってみたって仕様がなだろう...」ということはないのです。けちをつけたり、けなしてみても人は伸びません。お家でも、お子様の「いいところ」に気づいたら、どんどん褒めてやってほしいです。学習面であれ、生活面であれ、その子の頑張りや「いいところ」はそれなりに評価して、価値づけてやるのが大切で

す。そのように認められ、評価された子は、いつか他の面でも頑張れるようになると信じています。

先日の祖父母参観日の校長講話でもお話したのですが、本校の校章のモチーフとなっているホタルは、卵やサナギの段階でもかすかに光を発しているのだそうです。発光物質があって、光るそうですが、私のかすんだ目ではなかなか確かめられません。ホタルと子ども達を一緒にしてはいけませんが、子ども達も一人ひとり光輝くものをもっております。光る可能性、その子のよさと言ってもいいでしょう。わずかであっても、かすかであっても子どもの光を見取り、大切に伸ばしていければいいなあと願っています。

「いいところ」で思い出したことが一つあります。校門前の横断歩道で登校してくる児童を見ていて気づいたことがありました。四月から五月にかけて、靴のひもがほどけたままの状態で行っている子が気にかかりました。その都度、「危ないよ」と注意を促していたのですが、なかなか改まらない状況がありました。しかし、昨日ふと、靴紐のことで注意することがなくなっている自分自身に気づきました。「そういえば、Aさん、最近きちんと靴を履いているなあ」と嬉しく思いました。「でも、どうしたんだろう...」「お家の方が気づいて、家を出る時に見ていて下さっているのかな...」「お家の方、お子さんをしっかり見るゆとりが出てきたのかな...」等々、私は思い巡らしました。たかがほどけた靴紐一つのことです（否、正確には靴紐二本のことなのです）。ちょっとしたことです、良い方向に変わってきていることは事実です。その裏にも必ず何か訳があるはずです。Aさんを変える何か働きかけや環境の変化が家庭にあったのだらうなと私は推察しています。靴紐をきちんと結んで登校することで、少なくとも靴紐を踏んで転倒したり、それが原因で怪我や事故に巻き込まれたりする心配はなくなったなあと、ほっとしている次第です。

さて、毎朝舎内を巡っていると、1年生の子ども達がアサガオに水をやっています。2年生の教室を覗くと、ベランダで大豆を育てています。3年生でザリガニやカブト虫を飼っている学級もあります。他に、川蜷（かわにな）やメダカ、そしてオタマジャクシを育て、観察している学級もあります。植物や生き物などの対象と向き合う中で、子ども達がねがいをもって生き生きと取り組んでいる姿が見られます。「早く大きくなーれ」「赤ちゃん産まないかな」などと願いながら、自分自身の優しさや思いやりの気持ちも育てているにちがいないと思って、子ども達に接しております。「校長先生、見て！見て！」と声をかけてくれる子ども達と過ごせる毎日に幸せを感じます。こうして、便りを書いている間にも、子ども達が学級園で育ててきたキュウリやジャガイモ等の野菜を収穫して運んでいきます。取り組みの結果やその重みを肌で感じていることでしょう。

一学期は自転車による事故が気になりました。キックスケーター等に乗っていて怪我をしたり、車と接触したりする事故も起きております。ご家庭での乗り方や使い方の指導も必要です。また、キックボード等に限らず、携帯電話、インターネット、ゲーム機器等の商品を買って与える際には、それらの利便性だけでなく、お子様に及ぼす影響や危険性についても考え、使い方のルール等についてもご家庭で十二分に指導をしていただけると幸いです。インターネット、メール等に関わる被害やトラブルも巷ではあるようです。問題が発生する前に、問題を生じさせるような原因、状況、環境をつくらないことが一番です。

夏休み中にエネルギーをしっかりと蓄え、休み明けの二学期、子ども達が元気に登校してくることを願っています。熱中症や水難事故、交通事故等にはくれぐれもご注意ください。お願い申し上げます。

